

エコタウン通信（第28号）

町の低炭素社会の実現に向けた取組などを紹介するエコタウン通信(第28号)です。

今回は、庁舎エコオフィス化改修事業による平成30年度の二酸化炭素排出量及びコスト削減結果をお知らせします。

1 平成30年度の庁舎エコオフィス化改修事業による二酸化炭素排出量及びコスト削減結果

平成30年度の二酸化炭素排出量及びコスト削減結果がまとまりましたのでお知らせします。

(1) 二酸化炭素排出量削減結果

平成30年度	二酸化炭素排出量			(単位:t-CO ₂)
年度	電力	灯油	ガス※1	合計
平成30年度	102.7	0.0	34.8	137.5
平成25年度	180.4	74.7	1.6	256.7
削減量	77.7	74.7	▲33.2	119.2

※1 表中の「ガス」は、平成25年度はLPガス、平成30年度は都市ガスとなります。

平成30年度の二酸化炭素排出量は、137.5t-CO₂となり、平成25年度の256.7t-CO₂に比べ、**「119.2t-CO₂ (46.5%) の削減」**になりました。

当初の削減目標であった120.1t-CO₂を0.9t-CO₂下回り、平成29年度の120.7t-CO₂に比べて1.5t-CO₂下回ることにとなりました。要因としては、気候変動の影響による寒暖差が大きかったため、前年度に比べ電力量及び都市ガス使用量が増加傾向になり大きくなったものと思われます。

★杉の木換算から算出しました★

平成30年度は119.2t-CO₂の削減量となりましたが、この削減量を具体的にイメージするために、杉の木の本数に換算すること…

「杉の木 約8,500本分」の削減効果になります。※2

さらに、杉の木8,500本を森林面積に換算すると約5ha ※3になり、この面積は、東京ドーム1個分以上にあたります。

庁舎のエコオフィス化により、**1年間で「東京ドーム1個分」**の

森林が吸収する二酸化炭素を削減したことになります。

※2 杉の木換算

大きく成長した杉の木（樹齢 50 年、高さが約 20~30m）は、年間約 14 kg-CO₂ の二酸化炭素を吸収するとされています。環境省/林野庁「地球温暖化対策のための緑の吸収源対策」
今回の二酸化炭素排出削減量 119.2t-CO₂（=119,200 kg-CO₂）は…

$119,200 \text{ kg-CO}_2 \div 14 \text{ kg-CO}_2 = 8,514.2 \dots \approx 8,500 \text{ 本}$ となります。

※3 針葉樹の植栽本数と面積

植栽本数は ha 当たり 1,000 本から 1,700 本ぐらゐの間です。今回は 1,700 本で計算すると・・8,500 本 \div 1,700 本=5ha となります。

(2) コスト削減状況

平成 30 年度 コスト削減額 (単位：円)

年度	電力	灯油	ガス※4	合計
平成 30 年度	4,587,309	0	1,461,830	6,049,139
平成 25 年度	8,284,797	2,618,400	161,008	11,064,205
削減額	3,697,488	2,618,400	▲1,300,822	5,015,066

※4 表中の「ガス」は、平成 25 年度は LP ガス、平成 30 年度は都市ガスとなります。

平成 30 年度の電力料金等の合計は、**6,049,139 円**となり、平成 25 年度の **11,064,205 円**に比べ、**5,015,066 円 (45.3%)**の削減になりました。

さらに、庁舎エコオフィス化改修により、昨年度に引き続き庁舎管理業務委託契約の見直しにより、**年間 3,978,720 円**の削減となりますので…

合計で「**8,993,786 円のコスト削減**」になりました。

★削減した経費の活用★

削減した経費は、平成 31 年度以降の予算に計上される環境啓発事業（エコ・グリーン事業）の一般財源（町が負担する財源）として活用します。

平成 31 年度は、バイオディーゼル燃料購入代・利用促進補助金、庁舎エコオフィス化改修事業及び太陽光発電設備等設置事業の地方債償還に充当することで、町内の更なる二酸化炭素の排出・コスト削減を推進します。